

2018年(平成30年)

ハタハタ情報 No.2

平成30年10月19日発行

中央水産試験場 資源管理部

Tel : 0135-23-8707 Fax:0135-23-8709

後日、インターネットからもご覧いただけます↓

マリネット北海道 : <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/index.html>

水試調査船北洋丸によるトロール調査(留萌沖)の結果を報告します。

【調査概要】2018年10月13日～10月14日に、留萌沖の水深170～370mの5調査点でトロールを曳網し、ハタハタの漁獲試験を行いました。計39尾(0歳魚を除く)のハタハタを採集し、体長測定や年齢査定などを実施しました。

- 1マイル曳網あたりの平均採集尾数は5.5尾で、先月の調査と同様に採集密度は低い水準。
- 年齢構成は1歳魚主体であり、体長も例年に比べ小さいことから、今漁期の魚体は小型になる見込み。
- 成熟状態は遅めとなっており、沿岸前浜への来遊は11月中旬か。

1. ハタハタの分布状況(図1)

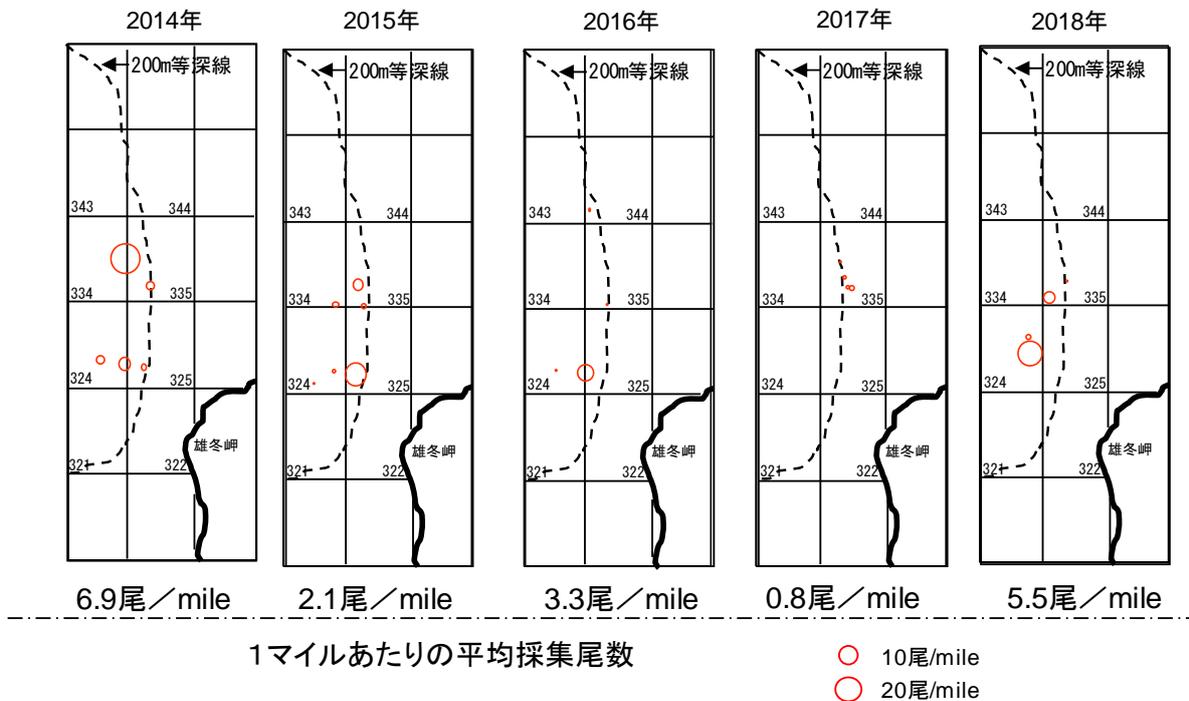


図1 10月トロール調査による採集尾数(0歳魚を除く)

今回の調査では5回のトロール曳網を行い、1歳以上の採集尾数は合計で39尾、1マイルあたりの平均採集尾数は5.5尾と、昨年より多いものの、先月のトロール調査同様に少ない採集数であったことから、今漁期も来遊資源量は少なくなると考えられます。

2. ハタハタの体長と年齢(図2)

今回の調査で採集されたハタハタの年齢構成(0歳魚を除く)は、1歳魚(2017年級)が82%、2歳魚(2016年級)が18%であり、1歳魚が主体でした。また、体長も例年に比べ小さめとなっておりますので、今漁期の魚体は小型の組成になる見込みです。

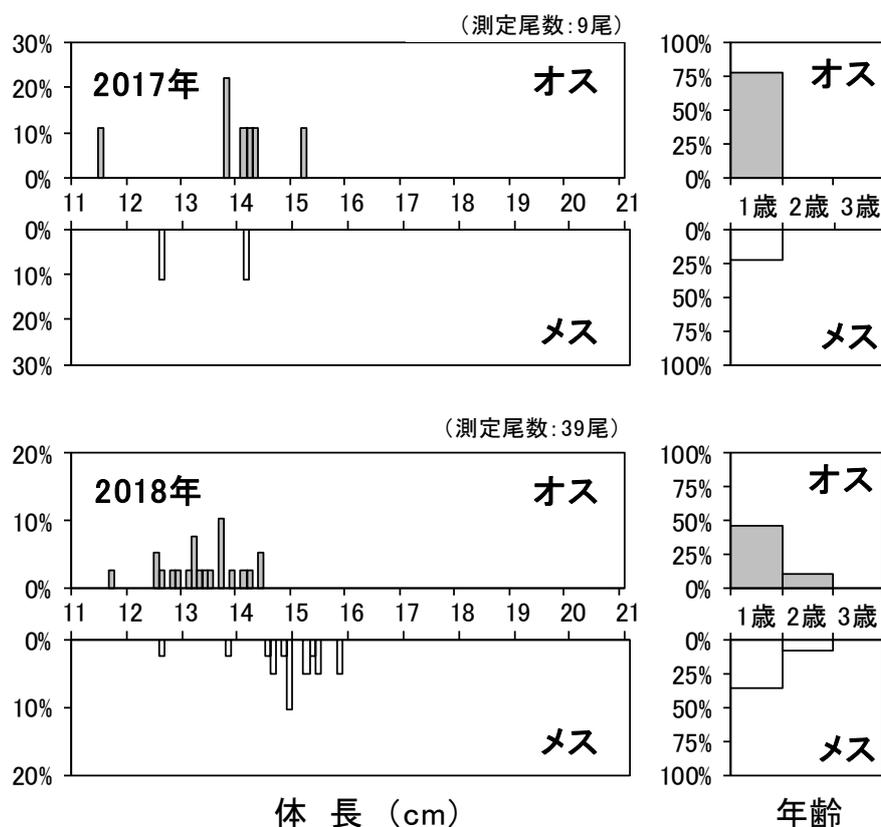


図2 今回の調査で採集されたハタハタの体長組成と年齢組成(0歳魚を除く)
上段図: 昨年(2017年)調査 下段図: 今回の調査

3. 成熟状態(図3)

ハタハタは成熟(生殖巣の発達)が進むにつれ、南下して沿岸にて産卵することが知られています。雌の体重に占める卵巣(ブリコ)重量の割合(GSI)は産卵が近づくにつれて高くなり、沿岸に来遊する頃には40%前後となります。

今回採集された雌のGSIは1歳魚が13.9%であり、過去に1歳魚が漁獲の主体となった2015年と同程度の低い値でした。2015年の前浜での初漁日が11月17日であったことをふまえると、今期の石狩湾前浜への来遊は11月中旬が目安となり、その時期の水温や海況に応じて来遊時期が決まるのではないかと考えられます。

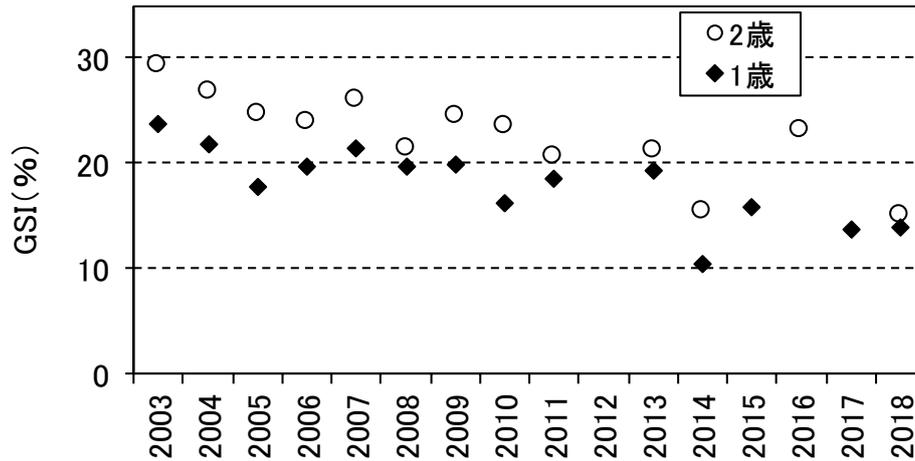


図3 毎年10月のハタハタ雌の卵巣重量指数 (GSI)
(GSI = 卵巣重量 ÷ 内臓除去体重 × 100)

4. 水温(図4)

今回の調査の中で行ったCTDによる留萌沖の表層から底層までの水温観測結果を、同時期の過去5年平均値(平年値)と併せて示しました。

2018年の水温躍層(水温が大きく変化する水深帯)は35m付近にあり、それより浅い範囲では平年より2.5度ほど高め、水深40~90m付近では平年並み、それより深い範囲では平年より高めとなっていました。

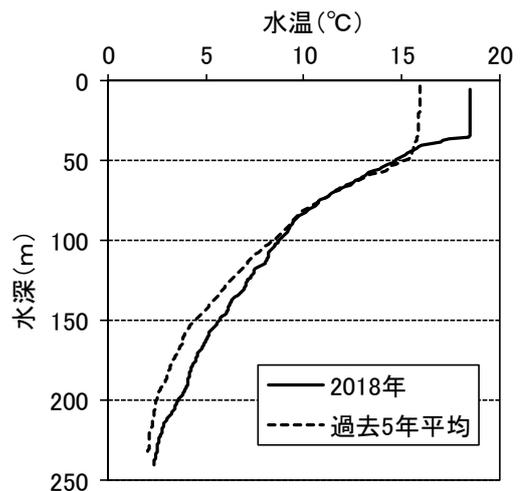


図4 留萌沖の水温分布

5. 今後の調査など

今年度の留萌沖での調査船によるトロール調査は終了です。関係漁業者の皆様、調査へのご配慮ありがとうございました。今後は、各漁業による漁獲物の標本採集調査などを実施いたしますので、重ねてご協力をお願いいたします。